

## プロフィール

所在地	広島県呉市
団体名	社会福祉法人広島岳心会障害者支援施設野呂山学園
活動名称	障害者が能動的に創作活動に取り組む文化芸術活動支援
こんな活動です	絵画・書道・陶芸等の創作活動
連携している団体等	幼稚園、小学校、特別支援学校、公民館、PTA、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企画・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、地域のボランティア団体

## 功 労 者 表 彰

活動分野
文化
主な対象
知的障害、精神障害
団体の規模
職員数 77名 利用者 122名

## 活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昭和54年の施設開設以来、生産活動と芸術活動にも取り組み、昭和57年から絵画や陶芸品等を展示する『野呂山学園作品展』を呉市内で毎年開催している。</li> <li>○ 障害の程度が重度の方から軽度の方まで幅広く、20代から80代と年齢差はあるが、全ての世代の方が創作活動に参加している。</li> <li>○ 創作活動は、日々の活動の一環として実施しており、自主的に創作活動を行う時間を確保している。</li> </ul>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動場所として、専用スペース「アトリエ」を設置する等、芸術活動を行いやすい環境を設定し、施設利用者の能動的な活動を支援できる仕組みを整えている。アトリエが自由に使えるよう開放されていることで、利用者が自主的に創作活動をしたい時にいつでも取り組むことができ、休日等の余暇時間でも積極的に創作活動を行う環境を整えている。</li> <li>○ 創作活動ボランティア・書道ボランティアを招き専門的な助言を頂く等芸術力のスキルアップに努め、アドバイスを受けることが利用者自身の創作活動への意欲づけにもなっている。</li> <li>○ 作品展は、呉市と共催し、呉市社会福祉協議会、教育委員会等、学校関係機関や民間企業等とも連携して障害者芸術文化活動の普及・発展の場となっている。</li> </ul>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 37回続く作品展は地域のイベントとして定着し、作品展を楽しみにしている市内外からの参加も多い。</li> <li>○ 利用者自身が創作活動の支援に応じて、芸術活動を開始したことで、これまで本人や周囲の支援者にもわからなかった芸術的な才能を開花させた者もいる。</li> </ul>

## 活動の様子

	
熱心に創作活動に取り組む利用者	作品の展示風景（於：呉市立美術館）

## プロフィール

所在地	広島県山県郡北広島町
団体名	戸谷営農組合
活動名称	アンプティサッカーの里づくり
こんな活動です	地域における障害者のスポーツ支援と環境づくり
連携している団体等	保育所、小学校、中学校、スポーツ団体、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）

## 奨励者表彰

活動分野	スポーツ
主な対象	肢体不自由
団体の規模	会員数 127名

## 活動の説明

③ 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 戸谷営農組合が管理している天然芝の校庭を練習拠点としているアンプティサッカーチームアフィーレ広島 AFC を支援している。</li> <li>○ アンプティサッカーの普及やチームの広報に取り組み、小学生から高齢者までの住民が応援に駆け付けたり、地域で行われる祭りにメンバーが参加したりするなど互いの交流を深めている。</li> <li>○ 北広島町内の小中学校等で体験交流会を実施したり、町内に練習拠点を置く他スポーツ団体と合同で、住民との交流会も開催したりするなど、障害者スポーツに対する理解を深めている。</li> </ul>
② 活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンプティサッカー（チームメンバー31人）の練習支援週1回（大会が近い場合は週2回）</li> <li>○ チームメンバーと地域住民の交流会を実施 公式試合日、月に1回程度</li> <li>○ 一般財団法人どんぐり財団主催のアフィーレ広島派遣事業、みんなのスポーツ交流会事業、シンポジウム等の企画運営を担当</li> </ul>
③ 活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公式の試合や試合前練習では、アンプティサッカールールに基づいて練習を行っているが普段は、だれでも参加してよいスポーツとして、当該団体が交流会を開くことで、練習への参加やチームへの加入目的の見学が増え、中国地方在住の障害者が入会したり、他地域での立ち上げを模索されたりする方もある。</li> <li>○ 地域での交流により障害への理解が深まり、地域住民自身がチームサポートや支援に参加するようになるとともに、交流会にチームの家族が参加することでより強い繋がりができるなどアンプティサッカーの活動がしやすい環境がつけられている。</li> <li>○ 地域住民へ障害者スポーツへの理解が広がり、地域でアンプティサッカーを支える機運が高まっている。</li> </ul>

## 活動の様子

	
交流会風景	アンプティサッカー体験会

## プロフィール

所在地	山口県山口市
団体名	一般社団法人山口県身体障害者団体連合会
活動名称	障害者わくわく体験教室・ステップアップいきいき講座、県障害者芸術文化祭
こんな活動です	文化芸術活動による障害の理解並びに障害者の自立と社会参加の促進を目指す！
連携している団体等	特別支援学校、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、行政（教育委員会、保健・福祉部局）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習、文化
主な対象	身体障害児・者
団体の規模	役員 11名 加盟団体数 21団体

## 活動の説明

①活動内容	<p>【障害者わくわく体験教室・ステップアップいきいき講座】 障害者が日常生活において、自信をもって豊かな生活を送れるようにするとともに、自立と積極的な社会参加を促進することを目的とした講座・大会を定期的に開催している。余暇の充実や、より自立的な生活につながるように内容を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書道講座（年6回開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・県障害者芸術文化祭に出展するための作品制作</li> <li>・講師による作品の講評 等</li> </ul> </li> <li>○ 写真講座（年4回開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の観光名所等での写真撮影</li> </ul> </li> <li>○ 料理講座（年3回開催） <ul style="list-style-type: none"> <li>・料理に関する基本的な知識、技能の習得を目指した実習</li> </ul> </li> <li>○ 障害者交流囲碁・将棋・オセロ大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・囲碁の部3名、将棋の部12名、オセロの部57名、計72名が参加（平成30年度）</li> </ul> </li> <li>○ 障害者交流カラオケ大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内2ヶ所で地区予選会を開催し、各予選会での上位7名が本大会に出場</li> </ul> </li> </ul> <p>【県障害者芸術文化祭】 障害者の文化芸術活動の振興及び社会参加の推進のため、障害者が制作した作品の展示や障害者による演劇等の舞台活動などを中心とする総合的な文化祭の企画・運営を、行政と連携しながら行っている。</p>
②活動体制	<p>会長（1名）、副会長（2名）、理事会（常務理事1名、理事5名）、監事会（監事2名） 会員は、目的に賛同して入会した身体障害者の団体をもって構成しており、加盟団体数21（障害別団体6団体、市町団体15団体）である。加盟団体が連携を密に取り合いながら、全県的な活動推進体制を構築しているのが特徴である。</p>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日常生活に必要とされる知識・技能の習得による、障害者の生活の質の向上及び社会参加の一層の促進</li> <li>② 障害者同士の交流による人間関係の拡大及びコミュニケーション能力の向上</li> <li>③ 共生社会の実現に向けた、障害への理解の促進</li> </ul>

## 活動の様子



障害者わくわく体験教室・ステップアップいきいき講座（書道）



県障害者芸術文化祭（ステージ発表）

## プロフィール

所在地	徳島県徳島市
団体名	鳴門教育大学附属特別支援学校青年学級
活動名称	鳴門教育大学附属特別支援学校青年学級
こんな活動です	同窓生と毎月楽しく過ごす、憩いの場・癒やしの場
連携している団体等	特別支援学校

## 功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ・文化
主な対象	鳴門教育大学附属特別支援学校卒業生
団体の規模	職員数 59 名 名簿登録者数 446 名

## 活動の説明

①活動内容	<p>4月から3月までの毎月1回、次のような内容で青年学級を実施している。</p> <p>①新会員紹介・お花見、②「運動会」・「学校祭」参加、③レクリエーション（風船バレー、ダンス等）、④ビデオ鑑賞会、⑤お菓子作り・かんたん調理、⑥夏祭り・懇親会・スイミング、⑦お茶会、⑧新年会・新成人紹介</p> <p>卒業生が定期的に会合を持ち、同窓生とともに楽しく余暇を過ごすなかで、様々な情報共有を図りながら、社会生活上必要な知識・技能・態度を身に付けていく生涯学習の場である。</p> <p>社会人としての現在の生活の様子や、生活上の問題、職場や人間関係の悩み事等について、信頼を置く教員や同窓生が話を聴きアドバイスをすることにより、社会への適応スキルを高め、明日への意欲を養う場となっている。</p>
②活動体制	<p>全ての卒業生に青年学級を紹介しており、現在の名簿登録者数は446名である。そのうち、最年長は1964年（昭和39年）卒業生であり、活動の歴史も53年を重ねている。</p> <p>担当教員が、工夫・改善を加えながら年間12回のスケジュールを作成し、3月と10月に登録者に郵送している。教員4~7名のグループを形成し、介護等体験実習の学生と共に青年学級を毎月輪番制で担当している。参加者からは活動材料費と会食費を集金し運営している。</p>
③活動の効果等	<p>53年の長きにわたり、社会に送り出した卒業生をサポートしている。毎回30~40名程度の参加があり、卒業生にとっては余暇を楽しむ場としてだけでなく、心の拠り所・生涯学習の場となっている。卒業後、社会人として活動範囲が広がるなかで、生活上の問題や職場での人間関係の課題など多岐にわたる相談内容を抱える卒業生は多い。卒業生にとって、安心して相談できる教員や同窓生の存在は、社会的孤立を防ぐ上でも非常に大きな役割を果たしている。障害の種別やその程度により、抱える問題も悩みも様々であるが、一人の自立した社会人としての生き方を支援する活動としての機能を果たしている。また、活動を通して教員が卒業生の社会での生活実態を知ることにより、在学する児童生徒の生涯を見据えた教育の在り方についても、考える機会となっている。</p>

## 活動の様子

	
お花見で同窓生とお弁当を食べながら歓談	夏祭りでかき氷作りに挑戦

## プロフィール

所在地	徳島県徳島市
団体名	徳島盲ろう者友の会ふうわ部
活動名称	ふうわ部定例会
こんな活動です	孤独な時間を豊かに過ごすために ～パートナーとともに体験する地域活動～
連携している 団体等	NPO法人

## 奨励者表彰

活動分野	学習
主な対象	先天性盲ろう児者
団体の規模	正会員数 35名 賛助会員数 22名

## 活動の説明

①活動内容	<p>先天性盲ろう者である会員4名（児童1名・成人3名 [20代～30代]）が、1ヶ月に一度、支援員の協力のもと調理をはじめ、本人の希望する活動（水泳、トレーニングジム、手芸、パソコン等）に参加している。重度障害のある者にとっては余暇活動の幅を広げる事も生涯にわたる学びの一環として捉え取り組んでいる。特に調理活動は、素材の感触、味、におい等を体感しながら調理の手順を学ぶことはもとより、協同作業を通し、コミュニケーション力の育成にも繋がる活動として積極的に取り組んでいる。活動内容は個人の状況に合わせてスムーズステップで変化させている。盲ろう者の変容は微細で、一緒に活動している時には把握しづらいためビデオに記録し、家族や支援者が一緒に見る機会を設けることにより、本人の意思の読み取りやスキルの習得状況を確認している。</p>
②活動体制	<p>盲ろう者向け通訳介助員や特別支援学校教員、大学生等が毎回5人～10人程度支援にあっている。母親をはじめとする家族も参加している。</p>
③活動の効果等	<p>先天性盲ろう児者は、その障害特性により、コミュニケーションや新しい経験をすることに困難を抱えており、余暇活動も極端に乏しい状況にある。教育段階においても盲ろうに特化した教育の場が無い状況であるが、学校卒業後は、盲ろうの障害特性に配慮された生活や余暇活動の場がさらに少なくなる。そのため、学校で身につけたことが活かされず、著しく状態が後退したり、落ち着いて生活ができなくなったりしていることがある。この会では、活動を継続することにより、本人なりに、活動に対する見通しを持った行動が増え、支援者との関わりや仲間への関心、取組姿勢に変化が見られるようになった。また支援者も家族も、本人たちの微細な発信を読み取るよう心がけ、より尊重して接してきたことにより、本人たちからは意思が通じた喜びの表情が見られるようになった。特に家族から、それぞれの人の特性や対応の仕方を学ぶことができるため、一人一人に応じた成長を促すような関わり方の工夫もできるようになったという感想を聞くことができた。</p> <p>孤立していた家族も、定期的と一緒に活動することを通してお互いの子どもの様子を知り、悩みの共有や将来の展望について話し合うことができるようになった。我々の活動について機会を捉えて発信してきたことにより、最近、いくつかの地域において同様の活動が始まっている。</p> <p>1か月に一度の活動ではあるが、先天性盲ろう児者が自分の好きな活動を支援者とともに行うことにより、その楽しかった記憶を繰り返し思い出して、ハッピーな気持ちで毎日を過ごすことができたと願っている。</p>

## 活動の様子



調理活動の様子



支援者と一緒にみかん狩り

## プロフィール

所在地	愛媛県伊予郡松前町
団体名	要約筆記オリーブまさき
活動名称	障がい者のための要約筆記
こんな活動です	聞こえが不自由な方への情報保障
連携している団体等	公民館、社会教育関係団体、社会福祉法人、行政（教育委員会）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習
主な対象	聴覚障害
団体の規模	会員数 9名

## 活動の説明

①活動内容	<p>中途失聴者、難聴者（聞こえにくい・聞き取りにくい人）、高齢者に対しての一つの情報保障としての重要な役割が果たせるよう、学習会の実施や研修会及び交流会への参加などを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年に3回、松前町内の大会での要約筆記             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい人権のまちづくり大会（約400人、非対象者含）</li> <li>・ 社会を明るくする運動松前町大会（約300人、非対象者含）</li> <li>・ 松前町生涯学習推進大会・公民館研究大会（約300人、非対象者含）</li> </ul> </li> <li>○ 月に1回、公民館での学習会             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事予定や結果報告、要約筆記のための情報交換、聞き取りながら要約する実技練習、大会前の準備</li> </ul> </li> </ul> <p>また、平成29年度全国障害者スポーツ大会（えひめ大会）では、聴覚障害者バレーボール及び聴覚障害者卓球の競技会場での筆談ボランティア、大会受付、案内を行った。</p>
②活動体制	<p>要約筆記を普及・啓発するためボランティア仲間を募り、平成9年より活動を開始し、現在会員は9名である。耳の不自由な方が「要約筆記」があれば安心して一人でも多くの集会や講演会に参加して下さることを目標に取り組んでいる。毎年、松前町社会福祉協議会からのボランティア活動助成金を活動資金に充てている。</p>
③活動の効果等	<p>学齢期、青壮年期、高年期と幅広い年齢層を対象に支援し、重度障がい者を含め、多くの障がい者のために要約筆記を行っている。手話は少し難しくても「言葉」を「文字」にすることで対象者に分かってもらい、喜んでいただいている。</p> <p>要約筆記の依頼があれば、メンバーのうち6～7人を選抜して依頼元へ赴いている。また、聴覚障害者等（高齢によるものを含む）への便利な意思疎通道具の普及活動を行っている。具体的に、最近では、高齢者サロン等で携帯ホワイトボードの普及活動を実施している。</p> <p>個別のボランティア活動として、実施メンバーのそれぞれは要約筆記だけでなく、他のボランティア団体に登録して精力的に活動している。メンバーのほとんどはその実績により社会福祉大会で表彰を受けている。</p>

## 活動の様子

	
松前町総合文化センターでのOHPを使った活動	2017年えひめ大会 筆談活動（伊予市）

## プロフィール

所在地	高知県高知市
氏名	片岡 光
活動名称	総合型スポーツクラブ「高知チャレンジドクラブ」 バドミントンサークル「スマッシュ」
こんな活動です	障害の有無や種別にかかわらず、多様な人の集う バドミントンサークル
連携している 団体等	特別支援学校、行政（教育委員会）、県体育協会、 市町村社会福祉協議会、スポーツ推進委員、 婦人会、老人会

## 功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ
主な対象	身体・知的・精神

## 活動の説明

①活動内容	<p>サークルは身体3名、知的9名、健常23名の計35名で活動しており、一昨年までは精神障害の方も参加していました。身体障害者については、車椅子使用者、片まひ、切断など様々な障害のある人ができるだけ介助を受けない体制で参加しています。</p> <p>家族の参加も多く、小学校低学年から70歳前後まで幅広い年齢の方が参加しています。</p> <p>楽しむことを重点に置いているため指導者はいませんが、参加者同士で教え合うなどそれぞれの役目を参加者で考え活動しており、片岡さんはこれらの調整役を担っています。</p> <p>高知県内にある20の総合型クラブの年1回の総会等で、障害者と健常者が共に活動するサークルとして紹介されることが多く、片岡さんは、参加者を増やすことに貢献しており、現在では活動人数が体育館のキャパシティを超えるほどとなっています。</p>
②活動体制	<p>毎週火曜日の夜間に定期的に活動しています。参加者は年度当初に会費と保険料を支払った後は自由参加という形式をとっています。障害者スポーツセンターが主催する大会と、高知チャレンジドクラブが主催する大会にも積極的に参加し、活動の機会を広げています。</p>
③活動の効果等	<p>参加者の健康増進や参加者同士の横のつながり作りに貢献しています。今まで参加することが難しかった障害者が、気軽に継続してスポーツに取り組む環境づくりに尽力しており、そのことが共生社会の一つの社会モデルとなっています。参加する子どもたちにとっても、サークルの中に障害者がいることが当たり前の光景になっており、障害者理解につながっています。</p>

## 活動の様子



試合の様子



集合写真

## プロフィール

所在地	福岡県大牟田市
氏名	井上 直子
活動名称	手話・筆記を交えた生け花の指導
こんな活動です	生け花を通じて“生きる”大切さを伝えています。
連携している団体等	行政（教育委員会、市民協働部）

## 功 労 者 表 彰

活動分野
学習、文化
主な対象
聴覚障害、精神障害

## 活動の説明

①活動内容	<p>平成 13 年から大牟田市障害者等文化体育施設、大牟田市市民活動等多目的交流施設等の公共施設において、聴覚障害者の皆さんにボランティアで手話・筆記を交えて生け花(池坊)を指導しています。</p> <p>平成 19 年度に発足した「大牟田市生涯学習ボランティア登録派遣事業(愛称:まなばんかん)」に生涯学習ボランティアとして登録し、これまで地域住民や聴覚障害、精神障害のある方々へ、生け花の実技指導や日本の伝統文化についての講話をしています。</p> <p>また、毎年開催される大牟田市障害者等文化体育施設での「サン・アビリティーズおおむたふれあいパラリンピック&amp;サン・アビまつり」において体験コーナーを設け、障害者の皆さんに生け花の指導をしています。</p> <p>形式にこだわらず、生活の中にある身近なものを使い、生け花の「和」の精神に基づいて「生きる」ことの大切さや尊さを伝えています。</p>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月 1 回、聴覚障害者へ手話と筆記を交えながら生け花教室の開催</li> <li>・「大牟田市生涯学習ボランティア登録派遣事業」を通じた派遣による心療内科・精神科のデイサービス利用者への定期的な生け花の指導や毎年開催される大牟田市障害者等文化体育施設のイベントにおける障害者の皆さんへの生け花の指導</li> </ul>
③活動の効果等	<p>生け花教室での定期的な指導によって、障害者の創作活動の場として定着しており、生涯学習による障害者の生きがいがづくりや社会参加の促進に貢献しています。今後も障害者のための学習機会を広げるとともに、ひとりひとりの気持ちに寄り添って、個人の自由な発想や感性を大事にしながら、生涯学習活動の支援を続けていきます。</p>

## 活動の様子

	
手話・筆記を交えながら生け花指導	心療内科・精神科での生け花指導

## プロフィール

所在地	福岡県朝倉市
団体名	虹の会
活動名称	情報提供（声の広報）
こんな活動です	「声」のチカラ、あなたの笑顔に元気100%
連携している団体等	図書館、社会福祉法人、行政（総務部）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習
主な対象	視覚障がい者
団体の規模	職員数 31名

## 活動の説明

①活動内容	<p>当団体は、昭和54年より視覚障害者への対面朗読、読み聞かせ、小中学校での朗読指導、市広報などの情報誌のテープ、CD作成、放送事業、朗読ボランティア養成講座などを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○視覚障がい者への理解を深める音訊による情報提供（毎月25名に提供）</li> <li>○視覚障がい者からの依頼に基づく書籍音訊</li> <li>○行政及び社会福祉協議会からの依頼による音訊資料を作成（市報1日号・15日号、社協だより、市議会だより、あゆみ）</li> <li>○身体障がい者福祉施設 菊池園や市立図書館での対面朗読</li> <li>○朝倉市社会福祉協議会主催の住民福祉ボランティアのつどいにおける司会やガイドボランティア</li> <li>○虹の会の朗読会において視覚障がい者を招待し、交流を図る。</li> </ul>
②活動体制	<p>朝倉市視覚障がい者福祉協会、社会福祉協議会、朝倉市ボランティア連絡協議会と連携をとりながら、地域住民が視覚障がい者を理解し誰もが住みやすい街づくりを実現できるように努めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○朝倉市社会福祉協議会の福祉ボランティア団体として登録、朝倉市ボランティア連絡協議会に登録。</li> <li>○音訊技術向上の為、毎月第2・第3火曜日に勉強会を実施しています。</li> </ul>
③活動の効果等	<p>音訊による情報提供を行うことにより、視覚障がい者が必要な情報取得ができています。</p> <p>音訊奉仕員養成講座の講師を行うことによって、地域住民の視覚障がい者への理解に繋がり、幅広い世代が音訊を知り、その必要性を感じることによって社会参加の機会が広がっています。</p>

## 活動の様子



広報紙の読み合わせの様子



広報紙の録音作業の様子

## プロフィール

所在地	佐賀県佐賀市
団体名	社会福祉法人 はる
活動名称	障がいのある方の芸術文化活動普及支援
こんな活動です	障がいのある方たちの芸術活動の輪を広げ、豊かな地域社会づくりに貢献します。
連携している団体等	特別支援学校、大学、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（保健・福祉部局、文化課）、芸術家、デザイナー、全国連携事務局

## 奨励者表彰

活動分野	文化
主な対象	すべて（主に知的障害）
団体の規模	正職員数 37名 嘱託・パート職員数 27名

## 活動の説明

①活動内容	<p>当法人は平成14年に設立して以降、「障がいのある人や社会のすべての人たちが、一人ひとりかけがえのない人生の主人公として、その命が尊重され、生涯を通して地域とともに幸せに暮らしてもらう」という理念の下に、福祉支援サービスの創出と展開、整備を積み上げてきました。仕事や活動を通じた地域の方々との触れ合いや協働から、障がいのある人たちの生活が豊かになり、地域の理解が深まることをめざした活動に力を入れています。</p> <p>なかでも、芸術活動については、平成27年に「Saga ArtBrut Network Center (SANC)」を設立し「障がいのある方の芸術文化活動普及支援」に取り組んでいます。芸術活動に取り組んでいる障がいのある方、支援している方、関心のある方などを対象に「相談」「セミナー」「展示会」「オープンアトリエ」「ワークショップ」などさまざまなプログラムを実施し、障がいのある方が芸術活動を通じて、豊かに生活できる社会を目指しています。</p>
②活動体制	<p>○専属スタッフ・補助スタッフ・本部責任者 各1名 ○外部アドバイザー2名（弁護士1名、芸術活動支援1名） ○有識者（学芸員、弁護士、大学教授、行政、TV局、デザイナー等11名）による協力委員会を設置し、事業の方向性・実施事業に対する意見聴取および評価を行う。</p>
③活動の効果等	<p>芸術活動に取り組む福祉事業所が増えてきており、支援者の知識やスキルも上がってきた。そのことにより、障がいのある人たちが芸術活動に関わる環境が広がっている。</p> <p>継続的な取り組みにより、支援者や作家のネットワークが形作られてきている。</p> <p>展示会の開催や、活動が様々なメディアに取り上げられたことなどによって、障がいのある人たちの芸術活動への認知度が上がっている。</p>

## 活動の様子

	
支援者が実行委員会を組織して展示会を作り上げる研修	アトリエ・サンクでの創作活動

## プロフィール

所在地	熊本県熊本市
団体名	社会福祉法人 熊本市手をつなぐ育成会
活動名称	本人部会「つなごう会」
こんな活動です	“明日からがんばろう”という活力の源となる活動
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習、スポーツ、文化、障がい者の当事者活動
主な対象	学校を卒業した知的障がいのある青年、成人
団体の規模	正会員数 320名 賛助会員数 80名 職員数 80名

## 活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障がいのある人の場合、職場や日常生活で悩みを抱えながらも、周りに相談できる人がいないことが多く、また、気軽に学べる場や機会も少ない。さらに、余暇利用や楽しみを持つことが苦手なため、働くことに意義や目的を見いだせずに離職する人も少なくない。こういった課題や悩みを解決する方策として生まれたのが、現在の「つなごう会」。</li> <li>・昭和41年頃からずっと、毎月1回の活動を継続。毎回40人程度が参加。</li> <li>・活動内容は、当事者活動や話し合い活動の他、調理、習字、生け花、パソコン操作、年賀状作成等の文化的活動、ボウリングやパークゴルフ、ペタンク等のスポーツの他、新年会や忘年会、遠足や1泊（or 1日）旅行、市・県・九州等の育成会大会への参加等。</li> </ul>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者で役員を選出。役員が参加者の希望を聞き、年間計画を立て活動内容や場所を決定。</li> <li>・支援者は、昭和40年代のスタート当初から、多くの学校の教師、障害者施設職員等が熱心に支援。最近では、退職・高齢化等で支援者が徐々に減少。現在は、法人（育成会）事務局と事業所職員が中心となって運営する形態に移ってきている。</li> </ul>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学びの場と同時に、“明日からがんばろう”という活力の源となる場づくり</li> <li>・月1回の活動に参加することで、親しい仲間と再会し、語り、活動を楽しみ、悩みを打ち明け、調理等のスキルを身につけることができる。何よりも、本人がほっとできる場であり、それが各人の社会生活や職業生活を支える大きな励みや原動力になっている。</li> <li>・生涯学習の観点から、一人暮らしや地域生活の仕方、恋愛・結婚・出産・育児等、学校では学べない事柄や学び直しが重要な事柄を学べる場づくりも検討していきたい。</li> </ul>

## 活動の様子



春の動植物園遠足（昭和56年）



生け花教室（平成元年）

## プロフィール

所在地	熊本県熊本市
団体名	熊本県障害児・者親の会連合会
活動名称	障害者の生涯学習支援
こんな活動です	一人の声は小さくても、皆でまとまれば大きな力となります。共に喜び、助け合いましょう！
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人、行政（教育委員会、保健・福祉部局）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習、文化
主な対象	知的障害、重症心身障害、てんかん、肢体不自由、聴覚障害
団体の規模	理事 11名 会員数 2,958名

## 活動の説明

①活動内容	39年間に亘り、障がいのある人たちや社会的に弱い立場の人たちの生命と人権を守り、安心して暮らすことのできる社会をつくるために、国の制度や地方行政の制度を理解し、必要な知識を得るために「障害児・者のしあわせについてのつどい」等の講演会や研修会を毎年開催している。また、障がい者の自立促進や日中活動の場の提供、交流会、サマーキャンプ、レクリエーション、障がい児者・家族の作文発表会等、各種行事を県内各地で行っている。それら各種行事には、中高生や大学生、社会人など幅広い年齢層のボランティアも参加して障がいを持つ子供たちと活動をともにしていることから、障がいを持つ子供たちの生活の経験を広げることにつながっている。さらに、障害者本人や家族からの相談にも対応している。
②活動体制	熊本県肢体不自由児者父母の会連合会、熊本県知的障害者施設家族会連合会、日本てんかん協会熊本県支部、熊本県聴覚障害者（児）親の会、全国重症心身障害児（者）を守る会熊本県支部の5つの団体で組織された連合会である。連合会の役員が企画運営を行い、県内の特別支援学校や障害者施設、行政機関等と連携・協働して活動を展開する体制がつけられている。また、県の協議会等へ役員を参画させ、行政機関との意見交換を図っている。
③活動の効果等	障害児・者を持つ親にあっては、講演会や研修会等を通じ障害に対する理解が深まり、障害の有無にかかわらず全ての人々が安心して暮らすことのできる地域社会をつくる活動が重要だという共通認識のもと、会員相互間のつながりを強め活動を継続している。社会においては、共生社会の重要性を認識しはじめ、制度改正等が進められている。継続的な活動により、本連合会の活動を支援、連携する関係者や関係機関は県下全域に広まっている。

## 活動の様子



障がい児者作文発表会（平成30年11月3日）



第22回県内の公立高校生との交流キャンプ（平成27年7月24日）

## プロフィール

所在地	大分県大分市
団体名	大分県知的障害者施設協議会
活動名称	大分県ゆうあいスポーツ大会
こんな活動です	スポーツを通じた体力の向上と交流、 「完全参加と平等」の実現
連携している 団体等	高等学校、専修学校・各種学校、スポーツ団体、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局）、ボランティア団体

## 功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害児者施設の 児童及び成人者
団体の規模	会員事業所数 122 団体

## 活動の説明

①活動内容	<p>知的障害児者施設の利用者が、スポーツを通じて体力の向上と参加者間の交流の輪を広げるとともに、障がいに対する県民の理解を深めることを目的に、昭和56（1981）年に開催されて以来、現在まで継続している。</p> <p>〔第39回大会〕 開催日：令和元年6月8日（土） 会 場：昭和電工ドーム大分 参加者：50施設 1,702人（利用者・施設職員計） 競技等：トラック競技(20m 50m 100m 400m 800m 1,500m 400m リレー)、フィールド競技(ソフトボール投げ、走り幅跳び、立ち幅跳び、フライングディスク)、フォークダンス</p> <p>交流を目的としながらも、毎年のように熱戦が繰り広げられる。本年も、大会新記録こそ出なかったものの、トラック競技では僅差の勝負、フライングディスクでは優勝決定戦が実施されるなど白熱した大会であった。一方で、フォークダンスのように利用者、スタッフが参加しやすい競技も取り入れている。</p>
②活動体制	<p>大分県知的障害者施設協議会が主催となって会員施設による実行委員会を組織する。施設職員がスタッフとなって、当日の運営全般、審判、記録等を行う。必要な部分は、関係機関の協力を仰ぎながらも自らで考え、工夫しながら作り上げる大会であることを重視する。一方、地域のボランティア団体、専門学校生、大学生、高校生などが参画し、交流機会を確保することで、障がいへの理解を深めてもらうよう努めている。</p>
③活動の効果等	<p>参加者の「また参加したい」「自信になった」の声から、目標をもって参加したこと、記録に挑戦し、練習の成果を発揮できた経験は、参加者の達成感や自信につながり、社会参加の促進のために大きな役割を果たしていると考えます。スタッフなど運営に関わる方にとっても障がいの理解を深めるための貴重な場と考える。来年度は40回大会を迎える。これからも、自信や生きる喜びにあふれる大会としていきたい。</p>

## 活動の様子



フライングディスク



1400人のフォークダンス

## プロフィール

所在地	宮崎県小林市
氏名	壹岐 博彦
活動名称	霧島おむすび自然学校を通じた 自然体験・野外活動の実践
こんな活動です	障がい者の冒険心や自立心を育み、 親子の絆や人との交流を深める野外での体験活動
連携している 団体等	行政（教育委員会）、教職員、学生、保護者等

## 功 労 者 表 彰

活動分野
自然体験・野外活動
主な対象
知的障がい、発達障がい

## 活動の説明

①活動内容	<p>1995年、登山活動を支援する団体として『おむすび登山会』を発足し、南九州にある霧島山系の高千穂峰に登る“おむすび登山”（愛称としての呼び名）を開始。縦走や季節を変えての登山を行ってきた。97年～01年には台湾との親善登山会を宮崎、台北、ニセコで全4回開催し、国際交流を果たした。遠征登山にも挑戦し、北アルプス最高峰の奥穂高岳に2名登頂に成功した（03年8月）。登山会では霧島山系以外に、宮崎県内の別な山域でも登るようになった。その後自然散策や野外料理、クラフト体験等、少しずつ活動を広げていく中で、2008年、もっと多くの障がい者とともに登山をはじめさまざまな野外での体験活動の楽しみを分かち合い、個々の持つ力の発揮と可能性を見出すことを願い、「霧島おむすび自然学校」として新たなスタートを切った。自然学校では、チャレンジとシーズンの2つの企画で年間8～12回の事業を展開。チャレンジ企画では登山をはじめ、カヤック体験（08年～年2～3回）、沢登り（10年～年1～2回）を行っている。シーズン企画では竹を使ったバウムクーヘンやダッチオーブン料理、そば打ち体験の他、季節を楽しむ池巡りや里山ハイク等がある。活動の中にネイチャーゲームやクラフト体験等も同時に取り入れているほか、梨園等地元の農家との協働事業も行っている。さらに小林市内の子育ての一助となればという思いで、小林市から事業を受託し市内の小学生を対象にキャンプ体験も行っている。</p> <p>こうした体験活動を安心・安全に行うため、障がいや特性の理解があり配慮のある支援と共に、野外活動の知識や技能を有する指導者を最低2人配置している。体験当日は、参加者が一人で行った挑戦できたことの喜びや楽しさを実感してもらえるよう、参加者一人一人への声かけ・励ましや賞賛等を行い、楽しい雰囲気づくりも心がけている。</p>
②活動体制	<p>事業の企画から準備、運営を事務局長が一手に担いながら、当日はボランティアとして30数名からなる教職員、高校生や大学生、一般の社会人の中から3～5名が協力参加している。ボランティアは障がいのある人たちを理解することや支援の学びを得ることを意識しながら、“共に楽しむ”ことを大事に取り組んでいる。</p>
③活動の効果等	<p>本人（障がい者）、保護者、支援者についてまとめる。まず本人には、穏やかな表情や動きが多く見られたり、人とのやりとりや会話が増えたりするなど、社会性の緩やかな育ちが見出された。危険予知や回避行動の芽生えもあり、障がい者にとって大切な力が得られたことを実感した。また継続参加の障がい者の中には、意欲や粘り強さも見られるようになった。保護者については、積極的な参加が増えている（リピーターの増加）ことが変化の一つである。また家族同士のつながりが深まり、体験の場が情報交換や相談の場になり、世代間交流も行われている。支援者には障がい者の見方や向き合い方に変化があった。共に活動する中で障がい者の持つ力を感じ、支援の仕方への工夫にもつながっており、インクルーシブな関係の学びの効果を実感できた。</p>

## 活動の様子



最後の登りを前に元気な笑顔（高千穂峰、御鉢）



バウムクーヘン作り「ちょっと難しいけど、おもしろい！」

## プロフィール

所在地	北海道札幌市
団体名	一般社団法人札幌市手をつなぐ育成会
活動名称	トライ青年学級
こんな活動です	集団での体験活動を通し、楽しく生涯学習する！
連携している団体等	社会福祉法人、行政（教育委員会、区役所、交通局、選挙管理委員会）、社会教育施設、北海道開拓の村等

## 功 労 者 表 彰

活動分野	学習、スポーツ、文化
主な対象	知的障がい者
団体の規模	職員数 18名 会員数 1,275名 運営委員会 18名

## 活動の説明

①活動内容	<p>○知的障がいのある方の余暇活動の面を充実させていくことを目的に、1983年（昭和58年）に活動を開始し、支援活動は2019年で36年目を迎える。</p> <p>○特別支援学校等を修了した知的障がいのある方を対象に、社会生活によりよく対応できるよう、集団生活や体験の場など実生活に即した活動プログラムを通して、一般社会知識やコミュニケーション力の習得、体力づくり、健康管理、余暇の過ごし方、心身豊かな生活のための知識等を学んでいる。（2019年度登録学級生84名）</p> <p>○活動プログラムは、「楽しく学んで様々な事に挑戦し、興味を持ってもらう」をモットーに、公共マナーや福祉制度、コミュニケーションの取り方などの講座、料理教室、パソコン教室、せんきょ体験授業、社会教育施設見学などの学習活動に、忘新年会、ボウリング大会、バスツアー等のレクリエーションを組み合わせて実施している。</p> <p>○集団行動が苦手な方に配慮し、障害福祉サービス利用によるガイドヘルパーや保護者も同行できるように、参加しやすい環境づくりを行っている。</p>
②活動体制	<p>○運営は、札幌市手をつなぐ育成会職員（5名）並びにグループ法人である社会福祉法人札幌親会（7名）及び社会福祉法人朔風（6名）で構成する運営委員会で計画して実施している。</p> <p>○活動プログラムは、日曜日に、学級生約20名を1グループとした単位で実施し、職員は指導者として、1グループに対して、障がいの程度を考慮し、4～5名が付き添う体制としている。</p> <p>○プログラム企画に当たっては、学級生へのアンケート調査でニーズを把握し、企画の改善を図っている。</p>
③活動の効果等	<p>○学級生同士または職員との交流や体験の場を通して、集団行動の中でのマナーや公共のマナー、コミュニケーションの取り方など社会生活上必要な知識を学び、充実した余暇の過ごし方を体感することができ、知的障がいのある方の生きがいづくりや社会参加しやすい環境づくりに寄与している。</p> <p>○公共の場における活動を通して、地域社会の中で生活する障がいのある方への理解啓発を図っており、障がいのある方の生涯学習や社会参加への支援につながっている。</p>

## 活動の様子



道案内等支援を受けながら選挙の模擬投票を体験



牧場での生キャラメル作りに挑戦中

## プロフィール

所在地	静岡県静岡市
団体名	特定非営利活動法人しずおか障がい者フライングディスク協会
活動名称	障がい者スポーツ
こんな活動です	障がいのある方々に対して、スポーツ教室等を通して、心身ともに健全な発達と健康の維持増進を図るとともに、指導者の養成、アジア地域とのスポーツ交流活動等を行っています。
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、スポーツ団体、行政（保健・福祉部局）、公益財団法人、海外（アジア地域）

## 功 労 者 表 彰

活動分野	スポーツ
主な対象	すべて（主に知的障がい）
団体の規模	会員数 70名

## 活動の説明

①活動内容	<p>(1)障がい者フライングディスク競技大会運営及びスポーツ教室開催事業等 静岡県、（公財）静岡県障害者スポーツ協会主催による「障がい者フライングディスク競技大会」の運営や障がい者団体が行うフライングディスク大会運営協力等を行っています。</p> <p>(2)指導者の育成、派遣事業 事業実施に欠かせない指導者の確保を図るため、指導者講習会やスキルアップの開催の他、団体等の要請に応じて、指導者を派遣して実技指導を行っています。</p> <p>(3)アジア地域とのスポーツ交流、用具寄附等支援事業 アジア地域とのつながりを大切にしていきたいと考え、韓国済州島、台湾、モンゴル、ベトナム、ネパールにおいて定期的な交流や競技用具の寄附支援等を行っています。</p> <p>(4)啓発事業 活動を知っていただくため広報紙の発行の他、静岡市社協や学校の依頼を受けて総合学習（小学校等）における「障がい者スポーツ体験」を行い、障がいのある方への理解等を深める啓発を行っています。</p>
②活動体制	協会専任スタッフは常駐していませんが、協会会員70人が県内各地におり、大会等に必要な人数を随時調整しています。大会によっては、県内の中・高校生や大学生の協力を得て運営を行っています。
③活動の効果等	<p>フライングディスク競技は、障がいの種類・年齢等を問わず、しかも付添者や御家族も一緒になって参加し楽しめるのが特徴です。障がいのない人にとっても障がいのある方への理解が深まり、ノーマライゼーションやユニバーサルデザインの推進にも大きく寄与するなど、活動による効果は大きいといえます。</p> <p>今後も活動を継続することで、国内外の障がいのある方々が健やかに生活できること、さらには市民の方々が障がい者スポーツへの理解を深め、共生できる仕組みや意識改革に繋げることが期待できます。</p>

## 活動の様子

	
静岡県障がい者フライングディスク競技大会	ネパールとのスポーツ交流